

29年度 氷見市教育総合センターだより 第3報

第 1 回 生徒指導研修会

6 月 27 日 (火) 開催

演題 スマホ時代の子供の現状と対策 —学校でのルールづくり—

講師 一般社団法人ソーシャルメディア研究会
チーフ研究員 石川 千明 先生

石川先生をお招きして「学校ネットルールづくり」についての研修会を開催しました。前半では、「ネットいじめ」「ネット依存」「ネットでの出会い」という視点から、様々なトラブル事例の紹介がありました。後半のグループワークでは、「全力ハイタッチ」「ひたすらじゃんけん」「積み木自己紹介」で友好的な雰囲気作りをした後、各自でネットに関する問題点を付箋紙に書き、グルーピングしながら対策について考えました。グループ発表では、「3分以内」「全員が話す」という約束を守り、楽しく伝え合いました。石川先生から、「レベルの高いグループワークができ、氷見市の先生方はすばらしい」とほめられました。



各学校では、研修会に参加された先生方が中心になり、児童会、生徒会と話し合いながらネットルールづくりを進めてほしいと思います。参加者の感想の一部を紹介します。

- ・スマホ等によるネットトラブルについて、自分の知識が不足していると、改めて気付くことができた。便利の陰に潜む怖さを子供たちに伝えていきたい。
- ・「本校は大丈夫」と思い込んでいたが、ネットの危険性を真剣に受け止めることができた。
- ・情報モラルを教えるだけでなく、普段の生活を充実させることも大切なのだと思った。また、コミュニケーション能力を育てることの大切さも感じた。
- ・ネットルールは作って終わりではなく、実践に結びつけていかなければならないと思った。

Q U を活用した魅力ある学級づくり研修会

7 月 5 日 (水) 開催

演題 魅力ある学級とは
講師 上越教育大学 教授 瀬戸 健 先生

「魅力ある学級づくり」推進委員と小中学校教員、総勢 26 名が参加して研修会を開催しました。研修会では、最初に、教育総合センター光安所長が、Q U 調査導入についての事業説明を行いました。学級集団の状況と学力が大きく関係していること、学級集団を育成するために Q U を活用してほしいことを説明しました。

講演では、瀬戸教授より、「魅力ある学級とは、どんな学級か」と質問があり、各自の考えをウエビング等の手法を用いグループで共有しました。その後、「学級は、子供の成長が保障されなくてはいけない」「やろうとする子供の姿勢に価値をおいてほしい」など、一人一人の学びに目を向け、公平な学級を作ることの大切さについて話されました。参加者の感想の一部を紹介します。

- ・「できる、分かる」子供だけでなく、「やろうとする」子供を認めていくことで、救われ、学ぶ意欲を取り戻す子供が増える。授業の中で一人一人が大切にされていけば、学級も安定していく。子供の立場になって教材を作れば子供の努力に気付く教師になると思う。
- ・学級内にいる「物言わぬ子供たち」が、「授業が楽しい」と感じることができる魅力ある授業を展開できるように、教材研究をがんばっていきたい。
- ・「授業づくり」をしっかりと行うことが、「学ぶ集団づくり」には欠かすことができないと、改めて感じた。「主体的・対話的で深い学び」を生み出すことができる魅力ある学級集団を各教科、各教員の持ち味を生かして作っていきたい。



今回は、まず初めに「氷見市いじめ防止基本方針」の改定について事務局から提案しました。平成29年3月に、国の「いじめの防止等のための基本的な方針」が改定され、それを踏まえて6月に「富山県いじめ防止基本方針」が改定されたことを受け、氷見市でも見直しを行ったのです。

その後、学校と関係機関及び団体のよりよい連携の在り方について協議しました。委員の方々からは、それぞれの立場から、日々の取組を踏まえた意見が出されました。

学校関係者からは、Q1調査やいじめアンケート、日々の子供たちの観察等から、**いじめの未然防止や早期発見**に努めていることや、いじめを発見したときには、**チーム学校**としてスピード感をもった取組に努めている現状について報告がありました。また、最近問題となっているネットトラブルに対応するための**ネットルール作り**が重要であるとの意見がありました。

各機関の代表者の方々からは、「スポーツ少年団と学校との連携の在り方」「学童保育における子供の実態」「子供の悩み事に関する各団体の取組」などを紹介していただきました。そして、いじめは、小学校や中学校のときだけの問題ではなく、その後の人生を左右する大きな問題であることを、しっかりと子供たちに伝えなければならないという意見をいただきました。また、子供からのサインを見逃さないためにも、日頃からの**信頼関係づくり**を大切にしていってほしいという意見もいただきました。

教育委員会事務局として、今回の貴重な意見や提案を参考にし、関係機関との連携を一層強めていきたいと考えています。各学校においては、「学校いじめ防止基本方針」の見直しを含め、より**実効性のあるいじめ防止対策**を推進されるようお願いいたします。

第1回 氷見の教師未来塾

7月25日(火)開催

演題 避難所運営における心構えと対応について

講師 広島市立梅林小学校 校長 中西 浩二 先生

平成26年8月に起きた広島土砂災害で、避難所の運営や授業再開という経験をされた広島市立梅林小学校の中西校長先生から、災害時における学校対応の実際について当時の写真や映像を交えて貴重なお話を聞くことができました。災害発生後に直面した様々な課題に対して、的確な状況把握と即時の判断、関係機関との連携、避難者の気持ちに寄り添うこと、職員に対して情報と見通しを伝えること等、避難所の校長として大切にしていた4つのことを確実に実践された様子が具体的な対応から感じられました。参加者全員が、災害発生から20日後に授業を再開された中西校長先生の話に引き込まれていました。以下、参加者の感想の一部を紹介します。



- ・市で作成された避難所運営マニュアルに目を通してはいるが、実際に開設となったとき、これまで考えもなかったことが多々あると分かった。非常災害は必ず起きるので準備していきたい。
- ・各地での災害の報道があるたびに自分事としてシミュレーションすることを心がけたい。
- ・学校は地域に支えられていることを再認識できた。地域の宝である子供たちに寄り添った教育を精一杯することが恩返しになると思う。
- ・「最前線にいるのは教職員である」という言葉が印象に残っている。校長のリーダーシップのもと、連携をとれるのも日頃の心掛けだと思う。「人とのつながりを大切に」「ルールを守る習慣を身に付けておく」「自助、共助の精神をもてるように」など、今できることが災害時の臨機応変な対応につながると思った。

幼保小連携教育合同講演会

7月26日(水)開催

演題 子どもの発達を踏まえた幼保小連携の在り方 ～新学習指導要領・改訂保育所保育指針を視野に～

講師 北海道教育大学 教授 阿部 美穂子 先生

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、子育て支援課と合同で講演会を開催し、62名の参加がありました。

阿部先生は、幼保小の接続支援の基本的な考え方として、「子供の発達の状態に応じて、柔軟な対応をする」「各幼・保・小の実情に応じたオリジナルプログラムを生み出していく」ことが大切であると話され、取り組みたい接続支援の一番は、まず、大人同士が顔見知りになり、気軽に声を掛け合える関係になることであると言われました。感想の一部を紹介します。



<保育園・認定こども園の参加者>

- ・9歳までは、幼児期と学童期の特徴を両方もち、幼保から小への接続期には、どの子供にも段差があるので配慮が必要であるという話が印象的だった。子供の実態に応じて3段階のレベルで接続プランの具体案を示され、大変参考になった。
- ・交流はしているが、本当に知りたいことを知らないのが実態だ。ニーズを出し合い、共に考えながら少しでも段差が低減できるようにしていきたい。
- ・「小学校に行くまでには」と何でも子供たちに求めすぎ、考えすぎていたと振り返る機会となった。子供の発達に合わせた保育の大切さを感じた。

<小学校の参加者>

- ・子供の前に教師や保育士が接続し、どの子供にとっても有効に働く支援(1stレベル)から、個別に配慮を要する支援(2nd 3rdレベル)まで準備していくことが大切であると感じた。
- ・子供の姿は、環境との相互作用によって変わるといふ話が心に残った。幼保での発達段階を踏まえて培われてきた経験や力を生かして小学校での生活や学習につなげ、一人一人の力を伸ばしていきたい。
- ・目指す子供像をもち、今、どんな力を付けるか考え、幼保から小に、小から中に向けてスムーズな接続が重要であると思った。

第1回 教育セミナー(兼 第2回生徒指導研修会)

7月28日(金)開催

演題 教えること、育てること、そして、愛すること ～教師として生きる覚悟を問う～

講師 愛媛大学 教授 平松 義樹 先生



平松先生は、「一人一人の『存在の豊かさ』を問い、考える教育を幼児期から一貫して行う必要がある」と話され、子供たちの表層的な側面だけを捉える「見る」から、子供の心に寄り添う「看る」への転換と、「協働的職場風土(教員文化)」があってこそ子供が育つと力説されました。

平松先生の「子供のために、この学校があり、子供のために私がある」との思いが溢れる圧倒的な実践や言葉、写真、お便り等に心を打たれ、

教師という職業のすばらしさを感じ、多くの先生方が勇気付けられ、励まされる講演会でした。

<参加者の声>

- ・子供たちを取り巻く環境は大きく変化している。社会は常に変化している。私たちは教員として何ができるのかをしっかりと考え、向き合っていくことが大切であると思った。
- ・教師の子供に寄り添おうとする姿勢や態度は、必ず子供に伝わる。「あせらず」「あなどらず」「あきらめず」を教師としての私の核にしようと決めた。
- ・子供をみる目が変わると実践が変わる。日々見ているものは子供が見せているものだけかもしれない。これからはチーミングで教育していくことが大切だと改めて思った。
- ・「授業が分からなければ教室は荒れる。授業で勝負ですよ」という言葉が印象に残った。夏休みは2学期からの授業のため、自分を磨く勉強ができる時だと思う。紹介していただいた書籍も是非読んでみようと思う。

ALT エリックさん、テレルさん、ルイスさん ありがとうございました

英語や外国語活動で指導していただいたALTのエリックさん(3年間)、テレルさん(3年間)、ルイスさん(2年間)が、7月末で勤務を終えられました。それぞれの夢に向かって、次のステップに進まれます。3人からメッセージをいただきましたので紹介します。

エリック・ベイラーさんからの言葉



I've been living in Himi for three years now, and it's been more than I could have hoped for. The kindness and warmth of the students and people here makes even dull days memorable. I'll never forget the feeling of being greeted hundreds of times at festivals, or the friends who have helped me feel at home in a new country.

I'm really sad to be leaving but I'll be sure to come back and visit sometimes. Thank you for everything, Himi.

Eric

テレル・ウォーリンさんからの言葉



Hello! My name is Terrell and I have enjoyed living in Himi for three years. During these three years, I have made many wonderful memories. I will always remember Himi's fresh food, beautiful scenery and the kindness of the people. I will truly miss my amazing students and the teachers that I work with. I have had a great time here and will always think of Himi as my second home. But I won't be far away. I am moving to Yokohama to work as an English teacher at a company, so I hope that I can visit Himi often. Thank you very much, Himi! See you again!

Terrell

ルイス・ミグリアザさんからの言葉



Hello, everyone! I have been in Himi for 2 years and I am very sad to be leaving. I will be returning to Arizona this summer. I am going to Library School starting in August.

I have enjoyed the time I spent in Himi very much. Everyone has been so nice to me and helped me a lot. I made some of the best friends I have ever made in my life here. I want to say thank you to everyone I met in Himi. I will remember all of the students and teachers I worked with for a long time. I will miss Japan, and I hope you have a great time with the new ALTs.

Louis